

環境医学Ⅱ

Environmental Medicine Ⅱ

単位数：5単位

○田村太朗 准教授：環境保健医学
山崎雅之 准教授：人間科学部

1. 科目の教育方針

技術化、情報化が著しく進歩した反面、環境問題やライフスタイルの変容、高齢化など種々の問題を抱える現代社会において、身体的・社会的・精神的な面での不適応から様々な健康問題が生じてきている。これら人間の健康に関わる諸問題を“生涯を通じての健康”を目指した健康教育の理念や方法論を確立していくことが求められる。また健康に関わる諸事項について周辺領域を含めて学際的知識と実践技術を体系的に習得し、現代生活に潜む健康課題に対する問題解決能力を養うことを学習する。環境医学Ⅱでは各論的な内容を主とし、各課題に対して周辺関連領域の知識を含めた、深く掘り下げた理解と議論を展開する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 自然・生活・社会環境と健康との関連を理解する。
- 2) 環境と健康との関連を歴史的、文化的な文脈 context から理解する。
- 3) 健康を支援する環境づくりや環境に順応した人間行動を理解する。
- 4) 健康課題に対応する人類生態学、政策科学の概念と方法を理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 自然・生活・社会環境と健康との関連を列記することができる。
- 2) 環境と健康との関連を歴史的、文化的な文脈 context から例示することができる。
- 3) 健康を支援する環境づくりの要件を述べることができる。
- 4) 地球環境問題における環境に順応した人間行動を例示することができる。
- 5) 人類生態学、政策科学の概念と方法の特徴を述べることができる。

3. 教育の方法、進め方

担当教員による講義を主としながらも、発言や思考時間を設けた双方向型の授業展開を行う。また、テーマによっては、学生によるプレゼンテーションやグループ討論を行い、学生自身が主体的に考える機会を設け、問題解決型思考を養う学習を行う。

講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更(オンライン⇒対面等)がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

学生によるプレゼンテーションの内容や表現、グループ討論への取り組み状況、課題レポート等を用いて、総合的に行動目標の達成度を評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

1) Mary Dobson 著、小林力訳：Disease 人類を襲った30の病魔、医学書院、2010.

2) 日本禁煙学会編：禁煙学改訂2版、南山堂、2010.

※他、講義ごとに資料を配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	環境医学 総論	未定
2	環境医学各論(1) 生活と健康	未定
3	環境医学各論(2) 社会と健康	未定
4	環境医学各論(3) 健康への自然と社会の相互作用	山崎雅之
5	地球環境問題(1) 地球温暖化	未定
6	地球環境問題(2) 化学物質による環境汚染	未定
7	地球環境問題(3) PM2.5による大気汚染	未定
8	地球環境問題(4) 生物多様性と生態系の破壊	山崎雅之
9	社会環境問題(1) 社会経済格差	山崎雅之
10	社会環境問題(2) 飲酒・喫煙	未定
11	社会環境問題(3) 生活習慣	山崎雅之
12	社会環境問題(4) 職業ストレスとメンタルヘルス不全	未定
13	人類生態学	山崎雅之
14	健康政策科学	山崎雅之
15	環境による発がん	未定